



ひてい 動詞の否定形「～ない」

この課では「食べない」「歌わない」「行かない」など、^{ひかこ げんざい}非過去(現在や未来)の否定を表す動詞の形^{ひてい}(否定形)を学びます。

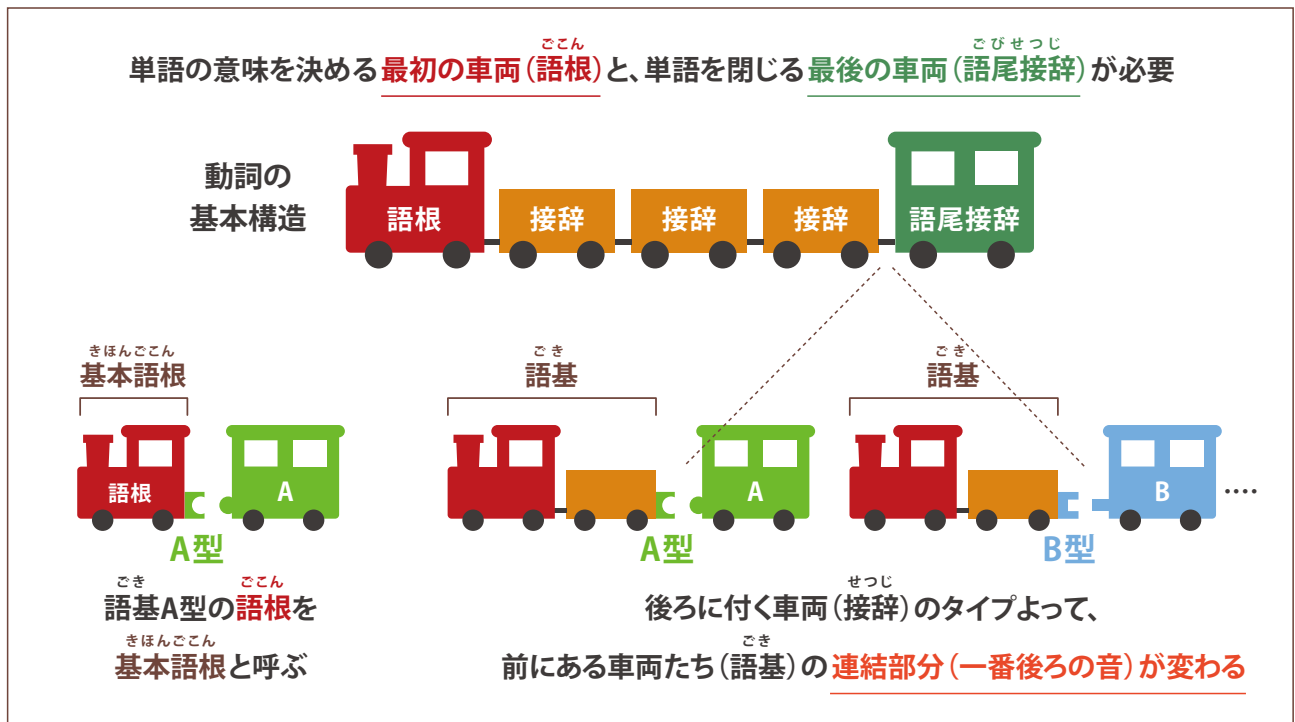


- ポイント
1. 動詞の否定形「～ない」は、^{ひてい}語基(A型)に、^{ごき}否定の接辞-(r)anが付き、^{ひてい せつじ}後ろに^{ごひせつじ}語尾接辞がつく。
 2. 母音で終わる語基のとき否定接辞は^{ごき}-^{ひていせつじ}1ranで、^{ごき}子音で終わる語基のとき否定接辞は^{ごき}-^{ひていせつじ}an。

1 動詞の基本構造 (3-5「動詞の基本構造」参照)

動詞を列車にして説明します。動詞は、単語の意味を決める機関車(語根)に、様々な意味を持つ、^{せつじ}付属の車両(接辞)がついて作られます。列車が走るためには、最初の機関車(語根)と、単語を閉じられる、最後の車両(語尾接辞)が必要です。

ある車両(接辞)の前にある車両全体を、その接辞に対する「^{ごき}語基」と呼びます²。後ろに付く車両(接辞)のタイプによって、前にある車両たち(語基)の連結部分(一番後ろの音)が変わります。このように、変化する語基のタイプには、A型(基本形)、B型、C型の3種類があります。語基A型の語根を「^{きほんごこん}基本語根」と呼びます。



1 - は接辞のマークです。

2 語根に直接、語尾接辞が接続する場合には、語基=語根になります。2以降の説明は、すべて語基=語根ですので、語基と語根を読みかえても大丈夫です。

2 否定形

非過去の否定接辞(-ran)は、語基A型に接続します。語基が母音で終わる場合には -ran、語基が子音で終わる場合には -an を付けます。なお、否定接辞の最後の「n」が子音の前に付くときには(発音できないので)この n を消して考えてください。

例えば「呼ぶ」という動詞は、基本語根(語基A型)の *abi*³ (母音終わり)に否定接辞 -ran と語尾接辞 -N (直説: 言い切る形)をつけて (*abi-ran-N*→) abiraN 「呼ばない」となります。「待つ」という動詞は、基本語根の *mat* (子音終わり)に否定接辞 -an と語尾接辞 -N (直説)をつけて (*mat-an-N*→) mataN 「待たない」となります。

	基本語根 (語基A型)		否定形
母音終わり	<i>abi</i> 「呼ぶ」	→	<i>abi-ra-N</i> 「呼ばない」
	<i>kuri</i> 「くれる・あげる」	→	<i>kuri-ra-N</i> 「くれない・あげない」
子音終わり	<i>hak</i> 「書く」	→	<i>hak-a-N</i> 「書かない」
	<i>mat</i> 「待つ」	→	<i>mat-a-N</i> 「待たない」

2 発音してみよう

否定形は使えるととても便利です。色々な動詞で、実際に発音してみましょう。

<p><u>abi -ra-N</u> 呼ぶ - 否定 - 直説 「呼ばない」</p>	<p><u>nas -a-N</u> 産む - 否定 - 直説 「産まない」</p>	<p><u>sin -a-N</u> 死ぬ - 否定 - 直説 「死なない」</p>	<p><u>hak -a-N</u> 書く - 否定 - 直説 「書かない」</p>
<p><u>mat -a-N</u> 待つ - 否定 - 直説 「待たない」</p>	<p><u>uig -a-N</u> 泳ぐ - 否定 - 直説 「泳がない」</p>	<p><u>kam -a-N</u> 食べる - 否定 - 直説 「食べない」</p>	<p><u>asib -a-N</u> 遊ぶ - 否定 - 直説 「遊ばない」</p>

³ 語根だけの形を、ななめ文字で表します。語根だけでは単語は成り立ちません。

練習問題

(1)-(7) はそれぞれの動詞の^{きほんごこん}基本語根です。

次の動詞の^{ひてい}否定形を予想して書いてみましょう。

(1) *nibu* 「ねむる」 → () 「ねむらない」

(2) *furus* 「殺す」 → () 「殺さない」

(3) *ak* 「歩く」 → () 「歩かない」

(4) *tat* 「立つ」 → () 「立たない」

(5) *fuug* 「(船を)こぐ」 → () 「(船を)こがない」

(6) *num* 「飲む」 → () 「飲まない」

(7) *tub* 「飛ぶ」 → () 「飛ばない」



ひかて ひていせつじ
非過去の否定接辞を (r)a ではなく (r)an と考えると、後ろに「テ形⁴」が来た時の変化を理解するのに便利です。(1)の文を見てください。

(1)

あま	あびらじ	あちゃ	あびたん
母	呼ばないで	父	呼んだ

「母を呼ばないで父を呼んだ」

(1)に出てくる「あびらじ(呼ばないで)」は、「呼ぶ」の基本語根の **abi** に否定接辞 **-ran**、テ形の **-i** が組み合わさって出来ています。

abi -ran - i
呼ぶ - 否定 - テ形

あびらに？

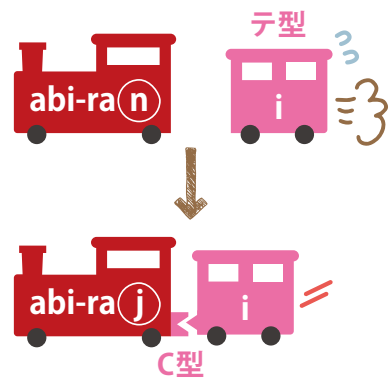
このままだと「あびらに」になってしまいますが、ポイントは、教材「テ形」で学ぶように「テ形は語基C型に付く」ということです。

表1を見てください。-i (テ形) がくつつく語基 **abiran** のC型はどんな形でしょうか？

表1. 語基の交替の仕方 (教材「動詞の基本構造」より)

語基のタイプ	① 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ n 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
語基A型 (基本形)	母音	s	k	t	g	n	m	b
語基B	母音	s	c	c	z	n	m	b
語基C	母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d

abiran は n 終わりの語基なので⑥を見ます。すると、語基C型は j 終わりの形であることが分かります。そのため、-i (テ形) の前の語基は **abiran** → **abiraj** と変わり、**abiraj-i** 「あびらじ」となるのです。



4 共通語で「食べて、ねて、起きて…」のように、動作が順番に起きていくことを表したり、文をつなげていく動詞の形を「テ形」と呼んでいます。